

綿飴

回転する熱い器にザラメを入れる  
やがて綿飴の雲がふきだす  
割りばしで巻き取れば雪のぼんぼり  
魔法のような器械に  
見取れていた少年の日  
考え出した人を限りなく信じて

毛玉

毛玉ってかわいいね  
うん けなげだね  
子どもたちが一生懸命  
がんばったしるしのようだね  
遊んだあとのなみだのようだね  
うん ほんとうに健気な花だね

スキップ

歩くことより  
スキップしてしまう子ども  
通学はんではそうはいかないから  
もじもじして歩いている  
行き先がない時はのびのびだから  
そのまま子どもは  
スキップしてしまうのだ

旅に出よう

目新しいことばもうないようだ  
古い下着を捨てるために  
自分のどこまで捨てるか  
試してみてもいい年輪だ  
旅に出よう  
捨ててはならないものだけを  
身にまとう仕度のために

猫の親子

テラスの犬走りに  
冷たい風の吹く夜は  
野良の親子が正座にくる  
小さく一声あいさつすると  
子ねこはもじもじするけれど  
じつと見つめるその眼の底に  
私にはわかるのだ  
猫の親子の当然と  
必死のようないきどおりを

夏の真空

ジージーと  
緑樹の幹にしがみついて  
修羅蟬のように声をあげ  
真夏の真空に耐えること  
そのようにして私たちに  
やがて安らかな  
存在の秋が来るだろうか

雪になる

おむすび型の独鈷山が  
杖を立て振り  
その面立ちを怒らせる  
深く裂けた股の内  
茫然として二股山も存在だ  
雪になる  
家に帰ろう  
しどろもどろの夜がくるから  
そこには懐かしい人が  
来るはずだ  
世話になったナタヤん（兄）  
とつくに死んだ父母も